ことばの意味とところ

あとがき

言葉を覚え始めた頃の子供たちを何人か集め、例えば、黄色い羽根に縞のある蝶を見せて観察させ、その数時間後に、多くの蝶の中に混ぜた中からその蝶を探し出す実験をしますと、正しく見つけ出した子供は必ず『黄色』という言葉も『縞』という言葉も知っています、これらの言葉を知らない子供には正しく言い当てることが出来ない事が判ります。

黄色い色が目に入った時、黄色という言葉を知っている子供は『この蝶は黄色い羽根をしている』と思うことが出来ますが、黄色という言葉を知らない子供には『この蝶は黄色い』という意識が起らないからです。

このように、人は目に入ったものを言葉で認識するものですから、言葉が貧弱ですと、物の観察や思考はどうしても貧弱にならざるを得ません。ところで、わが国の言葉の多く

は漢字が基になって作られていますから、漢字を正確に理解することが先決です。世界的な数学者と知られた故、岡潔先生は、漢字を評して「心の珠を磨く道具」だとおっしゃいました。実に至言だと思います。

本書は、月刊『母と子の新聞(言葉の吟味、諺と解字)』、『灯台(語源に学ぶ)』、『松下政経塾報(漢字に学ぶ)』等に連載したものを集録したのですが、その連載の理由は、言葉を正確にかつ深く理解することが人間として最も基本的であり重要なことだと考えたところにあります。

この度、連載の短編が、『東京美術』のご厚意により母と子の新聞、灯台、松下政経塾のご協力を得、また、幼児開発協会のご厚意により井深大会長との対談を巻末に加え、一書にまとめられて刊行されますことは誠に有難い事であり、感謝に耐えません。ここに本書が多くの読者の座右に置かれて、『心の珠を磨く道具』の一つとして頂くことを願って

筆を擱きます。

昭和六十年三月二十日

石井教育研究所 石井 勲